

答え合わせ・解説

問1	答え 2 目	「目を配る」の「目」の部分が入ります。意味は「全体に注意が行き届くように、あちこちを見る」です。
問2	答え 3 この機械は修理にとても手がかかる。	「手がかかる」の正しい使い方は「この機械は修理にとても手がかかる。」です。意味は「世話や処理に手間や時間がかかる」です。
問3	答え 4 持っている能力や技術を十分に発揮する	「腕を振るう」は「持っている能力や技術を十分に発揮する」という意味です。
問4	答え 1 議論の最中に相手の揚げ足を取るような発言は控えるべきだ。	「揚げ足を取る」の正しい使い方は「議論の最中に相手の揚げ足を取るような発言は控えるべきだ。」です。意味は「相手の言い間違いや失言を捉えてからかう」です。
問5	答え 3 ある物事のために、苦勞をいとわず懸命に働く	「身を粉にする」は「ある物事のために、苦勞をいとわず懸命に働く」という意味です。
問6	答え 1 口	「口を閉ざす」の「口」の部分が入ります。意味は「何も言わないようにする」です。
問7	答え 2 文	「二束三文」の「文」の部分が入ります。意味は「数が多くても非常に安いこと」です。
問8	答え 3 あるものと他のものとの間に、はっきりとした境界を設ける	「一線を画す」は「あるものと他のものとの間に、はっきりとした境界を設ける」という意味です。
問9	答え 4 鼻	「鼻を明かす」の「鼻」の部分が入ります。意味は「相手を出し抜いて、あつと言わせる」です。
問10	答え 3 警備員は不審者が入らないよう目を光らせている。	「目を光らせる」の正しい使い方は「警備員は不審者が入らないよう目を光らせている。」です。意味は「不正やミスがないか、厳しく注意して見張る」です。
問11	答え 3 結果がどうなるか分からないが、運を天に任せてやってみること	「一か八か」は「結果がどうなるか分からないが、運を天に任せてやってみること」という意味です。
問12	答え 4 何も起きなかったから、私の取り越し苦勞だった。	「取り越し苦勞」の正しい使い方は「何も起きなかったから、私の取り越し苦勞だった。」です。意味は「まだ起こっていないことに対してあれこれと心配すること」です。
問13	答え 4 父は骨董品を見る目が利く。	「目が利く」の正しい使い方は「父は骨董品を見る目が利く。」です。意味は「物事の良し悪しを見分ける能力があること」です。
問14	答え 2 全体に注意が行き届くように、あちこちを見る	「目を配る」は「全体に注意が行き届くように、あちこちを見る」という意味です。
問15	答え 3 心	「心に刻む」の「心」の部分が入ります。意味は「忘れまいとして、深く記憶にとどめる」です。
問16	答え 4 いとま	「枚挙にいとまがない」の「いとま」の部分が入ります。意味は「数が非常に多くて、いちいち数えきれないこと」です。
問17	答え 3 やる気のない相手に意見を言っても、暖簾に腕押しだ。	「暖簾に腕押し」の正しい使い方は「やる気のない相手に意見を言っても、暖簾に腕押しだ。」です。意味は「手ごたえがなく、張り合いがないこと」です。